

十人十色の、ミライを咲かせる

2018 神奈川県公立高校入試 問題分析資料

さくら個別指導塾

2018 英語-①

- ・英作文の大問が一つなくなるとともに、リスニングの大問のなかの英作文もなくなった。とはいえ、配点の比重がやや上がった文法問題の難易度は例年通り高く、テスト全体としての難易度には大きな変化はない。
- ・点数全体の6割をリスニングと長文読解が占めており、いわゆる英語の4技能のうち「聞く力」と「読む力」が重要である傾向も変わらない。

| | 出題傾向の変化/出題の特徴 | 学習のポイント |
|-------------|---|--|
| 問1 リスニング | 英作文の小問がなくなったものの、配点は昨年の18点から21点に増えた。(ウ)では聞き取った情報をもとに簡単な計算をして解答を導く問題や、英語中の”other country”を”abroad”に言い換える問題等、聞き取った情報が直接は解答につながらず、それをもとに思考を展開して答える必要のある問題が見られた。 | 意識的に英語を聞く機会を増やして、慣れていくことが大切。リスニングCD等は英文を読みながら聞き、それぞれの単語の発音を掴むこと。 |
| 問2 適語補充 | 例年通り会話文中の空所に語を入れる形式で、語彙力だけでなく、文全体の文脈をしっかりと読み取る読解力も問われた。(ア)の”traditional”はスペルミスを起こしやすかった。 | 出題されるのは基本的な語句。日頃からコツコツと暗記をしていくのが何よりの対策。 |
| 問3 適語選択 | 今年は1問3点に配点が上がった。比較や分詞、動名詞といった頻出単元が今年も問われた。(ア)は複数形の名詞を伴う前置詞句によって修飾された主語の数を問う問題で、基本とはいえ、正確な文法理解が必要だった。 | 各単元の基本文を押さえていく。時制、主語への意識を高く持ち、類題での演習を重ねよう。 |
| 問4 語順整序 | こちらも例年通り、疑問詞＋不定詞や目的格の関係代名詞等、3年生の後半で扱う難度の高い単元からの出題が目立った。とくに(エ)は、間接疑問文と助動詞の知識を組み合わせる必要がある問題で、難易度は高かった。配点は1問4点に増えた。 | 3年生後半の重要単元からの出題が多い。早めに予習を進めておこう。また、tellやknowなど、特定の動詞が使われた文が出題されやすい傾向にあるため、そうしたパターンを問題演習により把握していくことも大切。 |

2018 英語-②

| | 出題傾向の変化/出題の特徴 | 学習のポイント |
|-------------|--|--|
| 大問5 条件作文 | <p>英作文の大問は例年2問出題されていたが、今年は英文とイラストから必要な英文を考えて作る条件英作文のみになった。疑問詞を使った疑問文、受動態、助動詞と3つの文法知識を組み合わせて解答する必要があり、難度は高かった。問4にも言えるが、各単元の基本文を覚える、といった学習では対処することができない。日頃からしっかりと文法理解を積み上げていくことが重要。</p> | <p>大問5は基本レベルの問題。英作文問題に繰り返し取り組み、各単元の基本文の学習をしっかりと行おう。</p> |
| 大問6-8 長文 | <p>問6 英語によるスピーチ原稿の読み取り。主題は環境問題で、頻出のテーマ。類似したテーマの英文に多く触れておくことが大切。小問数、形式に変化はなかった。問7・8も長文読解であり、配点は合計で40点と大きい。3年生になってからではなく、1-2年生の早い時期から英文に触れ、読み慣れることが大切。</p> <p>問7 英文と図表の読み取り。小問数が1問減った。(ア)(イ)ともに質問の英文を先に読んで効率よく答えを導く、といったテクニックが使えなくなっており、しっかりと英文と資料を読み込んで解答しなければならなかった。(イ)は、資料中に解答には不必要な情報も多く含まれており、英文を「読む力」に加え、有用な情報のみを取捨選択する情報処理の力も問われた。</p> <p>問8 会話文の読み取り。主題はプログラミングで、IT関連のよく見られるテーマ。(イ)は、英文を正確に読み取ったうえで、その指示に従ってカードを並び替えるというもので、やはり情報処理能力、思考力が問われる問題だった。</p> | <p>接続詞や前置詞、不定詞等の前で英文を区切って読むスラッシュ・リーディングの技術を身に付けられるとよい。そのためにも、初見の英文に触れる機会を増やしていく必要がある。学校のテストも実力問題化しているため、各単元で一問は長文読解に取り組もう。</p> |

2018 数学-①

- ・出題の単元は例年通りで、内容については大きな変更はなかった。
- ・変更点は出題の仕方、マークシートで答えるものが昨年より3問増えた。証明問題も完全証明ではなくなり、証明の中で根拠となる部分のみ記述するという方式に変更された。
- ・全体的に難度の高い問題での記述が目立った。

| | 出題傾向の変化/出題の特徴 | 学習のポイント |
|--------------|--|--|
| 問1 計算 | 例年通りの出題傾向。マークシートとなったのが昨年との違い。 | 出題されるパターンは決まっている。早く正確に解く訓練が必要。 |
| 問2・3 小問集合 | 問2と問3における出題数のバランスが変わったが、内容に大きな変更はない。過去に1度だけ出題された不等式の出題があったが、基本的な内容であった。 記述で答えるのは問3での(ア)(イ)のみ。(ア)の図形では三平方の定理と相似を使う、かなり難易度の高いものであった。 (イ)では数量関係を文字式で表すものが出題されたが、基本的な内容であった。 | 神奈川県入試で過去に出題されてきた問題に多く触れることが必要。基本は多くの受験生が正解できる。図形の応用も、パターンに分けて訓練し、汎用性のある解法をマスター。 幅広く出題される可能性があるため、他県入試の小問にも触れていく。 |
| 問4 関数 | (ア)は例年通り、(イ)はここ数年、線分の比から座標を求めていくものであったが、今年は若干難しくなった印象。比を使って座標を求め、さらに中点の座標を求めていくもので、答えに至る過程が増えた。また、選択肢の組み合わせも増えたのも変更点である。(ウ)は記述となり、例年同様難しめの出題となった。 | 決まった手順に沿って解いていく訓練が必要。図形的な考え方も関わるので、相似や面積比の基礎もおさえる。 |

2018 数学-②

| | 出題傾向の変化/出題の特徴 | 学習のポイント |
|---------------|---|----------------------------|
| 問5 確率 | <p>昨年同様、サイコロ2つ、約数を使って試行をしている。 試行のルールが分かりにくく、問題文をしっかりと読み理解する必要があった。 (イ)が記述となったことが昨年との変更点であり、難易度は高くなった。</p> | <p>正確に数え上げる訓練を重ねる。</p> |
| 問6 平面図形・証明 | <p>証明問題。完全証明から一部のみの記述へ変更された。空欄に当てはまる内容を記述するものであり、前後関係から答えを予想しやすかった。 例年証明のみの出題であったが、今年は(イ)が追加された。角度を求める問題で難しいものであった。</p> | <p>簡単な証明で記述の書き方を身につける。</p> |

2018 国語-①

問題数や配点には大きな変化はなかったものの、内容面では様々な変更点が見られた。漢字の出題形式が変わり、選択肢の漢字が示されない形になった。また、論説文の大問では記述問題がなくなり、会話文と資料の読み取り問題では記述の分量が減るなどの変化があった。全体として、記述式の問題は減少したものの、易しくなったわけではなく、むしろやや難化している。とくに小説の大問では、内容の精緻な読み取りが要求される問題が出題された。

| | 出題傾向の変化/出題の特徴 | 学習のポイント |
|-------------|--|---|
| 問1 語彙・文法 | 漢字と文法、短歌の読み取り。漢字の読みでは、「苦衷」など漢検準2級クラスの中でも難度の高いものが出題された。昨年からマークシート方式の採用に伴って選択問題に変化した漢字の書きでは、選択肢の漢字がカタカナで表記され、漢字で示されなくなった。漢字に関しては、昨年に比べ難化していると言える。文法は自発の「られる」の識別。昨年に比べ、文法知識が要求される度合いはやや強まった。短歌の読み取りは比較的易しかった。 | 漢字学習の際は、字面だけでなくそれぞれの熟語の意味までを把握できるようにしていこう。 |
| 問2 古文 | 鎌倉初期の説話集『続古事談』からの出題。選択肢の形式は昨年から大きな変更はなく、難易度は平年並み。述語や発話に傍線が引かれ、主語や発話者が問われるので、傍線部の前を丁寧に読み取ることが大切。 | 「いと」や「あやし」といった基本的な古文特有語、古今異義語は覚えておく。注釈・傍注をよく読み、文全体の流れを掴むことを意識しよう。 |
| 問3 物語文 | 出典は藤井清美「明治ガールズ」。昨年同様、一種の歴史小説からの出題となっており、公立高校入試の定番である「現代の中高生を主人公とした成長物語」の枠からは外れた作品の出題が続いている。日頃から、様々なジャンルの物語に触れることが大切になる。(オ)は情景描写の読み取りで、登場人物の心情とともに、表現の効果を考える必要のある難問だった。全体的に、登場人物の心情を細かに追っていく必要のある問題が多く、昨年に比べ難化したと言える。 | 日頃から意識的に本を読むようにし、文章から具体的な場面を立ち上げる力を付けることがまず大切。問題演習量も重要。選択肢を消去法で検討する技術を身に付けよう。 |

2018 国語-②

| | 出題傾向の変化/出題の特徴 | 学習のポイント |
|---------------|---|---|
| 問4 論説文 | <p>自然哲学から人間的な「意味の世界」を対象とするソクラテス哲学への発展、また「事実の世界」と「意味の世界」との二重性等、抽象的なテーマを取り扱った文章であったが、語り口自体は平易で内容は掴みやすかった。選択肢も容易に2択以下に絞り込めるものが多く、全体的に易化した。記述問題がなくなったが、この傾向が今後も続くとは限らないので、要点をまとめる練習は今後もしておいたほうがよい。</p> | <p>筆者の主張とその根拠、文中で何と何が対比されているのか等、論理的な文章の内容を把握する上での基本的な事項を押さえて読む訓練をしていく。出題されやすいテーマはある程度絞られるので、他県入試も含めた問題演習を通じてそれらを掴んでいくことも大切。</p> |
| 問5 資料の読み取り | <p>会話文と資料の読み取り。(ア)の選択肢の問題は、これまでに比べて考慮しなくてはならない事項の数が単純に増加し、やや複雑だった。記述問題は文字数が大きく減ったものの、昨年までのように会話文から書き抜くという方法では対処できず、図表から必要な情報を読み取り、まとめる必要があり、むしろ難化した。他教科についても言えることだが、テキストや図表から効率よく情報を読み取り、正答を導ける情報処理能力が問われたと言える。</p> | <p>問5の記述は文章からの書き抜きで答えることができる。模試や入試過去問等、神奈川県入試に即した形式の問題で練習を重ねよう。</p> |

2018 社会-①

- ・2018年度の入試の中でも最も変化の大きかった教科であり、大幅に難化したといつてよい。
- ・全体として、基本的な知識に加え、それらを関係付けたり、それらを基に類推したりといった思考力を問われる問題が多かった。
- ・一問一答レベルの知識の習得は必須だけでは足りず、他県入試等を通じて様々なパターンの問題での演習を行い、力を付けていく必要がある。

| | 出題傾向の変化/出題の特徴 | 学習のポイント |
|------------|--|---|
| 問1 世界地理 | メルカトル図と正距方位図を並べた形式は例年通りだが、小問数、配点ともに増加した。また、新傾向の問題の出題が目立った。とくに、(ウ)の時差に関する問題は大きく変わり、これまでのように細かな計算は必要としなくなったものの、時差の仕組みをしっかりと理解したうえで、資料中の情報と結びつけて答える必要があった。(エ)の地震の発生頻度についての問題も、環太平洋造山帯、アルプスヒマラヤ造山帯の位置を把握したうえで、それを地震の発生と関係付けて考えることが求められた。(オ)は、昨年同様、ある地域の雨温図と生活、産業との関連を問う問題。地図と雨温図から高山気候であることに気付けなくてはならず、難易度は高かった。(カ)(キ)はそれぞれ歴史、日本地理の知識も必要な分野横断的な問題で、これらも難しい問題だった。 | 白地図に書き込みをしながら、早い段階から各地の重要ポイントを復習していくことが大切。地図の読み方、時差の問題については、問題演習をしっかりと行い、解法を身に付けていこう。 |
| 問2 日本地理 | こちらも全体として難化した。(イ)は抑制栽培と促成栽培の知識に加え、グラフの正確な読み取りが求められた。(ウ)は「製糸業が多かった」という情報から、養蚕業がさかん→桑畑が必要、という風に思考を展開する必要がある問題。(エ) ii は歴史との分野横断的な問題であるとともに、等高線から川の流れる向きを読み取らなければならない、過去にも出題例はあるものの、難しい問題だった。 | 世界地理同様、早い段階から重要ポイントを振り返っておくことが重要。地形図の問題は、少ない暗記事項で得点を稼げる。地図記号を覚え、問題演習を重ねよう。 |

2018 社会-②

| | 出題傾向の変化/出題の特徴 | 学習のポイント |
|----------------------|--|--|
| 問3 近代以前の歴史 | 小問が1問増え、配点は昨年より4点増。(ア)は資料が堀のある塹壕性集落に触れていることや、土器に描かれた建物が高床倉庫であることから時代を特定する問題。資料の細かな読み取りが求められた。(イ) i では歴史的な事象を時系列順に並べ替える問題が復活した。歴史の流れの総体的な把握が必要。 | まずは年表を使った暗記を進め、基本事項を整理し、出来事の流れを掴もう。重要な出来事がどこで起こったかなど、地理分野と絡めた学習も大切。 |
| 問4 近代以降の歴史 | 近代以降の歴史について問題。年表を軸にした問題で、(ア)、(イ) i、(ウ)など、時系列の把握が求められる問題が多く出題された。(ア)と(ウ)は、ある出来事以降の事象を複数の中から選んだうえで並び替えるという、これまでにないパターンでの出題だった。 | 近代以降は情報量が増えるので、出来事間の因果関係もしっかりと押さえ、説明できるようにしていくことが大切。それが記述対策にも繋がる。文化史や生活史といったテーマ史にも目を通そう。 |
| 問5 公民 憲法・人権・政治 | 人権と憲法、政治の仕組みについての問題。難易度的には大きな変化はなく、基本的な知識をしっかりと身に付けていれば答えられる問題が多かった。(オ)の一票の格差に関する問題は、格差が発生する仕組みをきちんと理解している必要があった。 | 一問一答形式の問題等で、基本事項の暗記をするのが基本。比例代表並立制の意義など、理解が必要なポイントについては自分で説明できるように。 |
| 問6 公民 経済・国際 | 経済と国際関係についての問題。(ア)、(ウ)は為替やインフレーションの仕組みを原理的に理解したうえで答える必要のある問題だった。(エ)、(オ)では、資料の丁寧な読み取りが求められた。資料中の情報量が増えているので、正確に情報を処理することが大切。 | 基本はやはり暗記だが、とくに経済分野は記述問題が出題されやすい。資料から必要な情報を読み取りまとめることができるよう、問題練習をしていくことが大切。 |

2018 理科-①

- ・全体の傾向は変わらず、知識と思考力が問われる出題となった。
- ・記述式の問題が1問減ったが、各問で考えなければならない情報が多い。
- ・記述が減りマークシート中心の出題とはいえ、すぐに答えを導けるものが少なく難易度は高い。

| | 出題傾向の変化/出題の特徴 | 学習のポイント |
|------------|---|--|
| 問1 物理小問 | 音、エネルギー、浮力の出題。 例年通り原理を理解していないと解けないものが多い。 | 問1～問4は基本知識のみで解けるものが多い。 物理、化学、生物、地学の4単元それぞれで基本知識を身につけていく。暗記中心。 |
| 問2 化学小問 | ここ数年出題されてこなかった酸化銀についての問題が(イ)で問われた。 (ア)と(ウ)に関しては神奈川県入試としてはオーソドックスな問題。答えを導きやすかった印象。 | |
| 問3 生物小問 | (ア)では心臓についての出題があった。過去にあまり出題されてこなかった単元である。 (イ)は昨年と同じような出題パターンで、図の中にある各部についての記述を注意深く読む必要があった。 (ウ)は正しい染色体の組み合わせの個数を答えるもので、こちらも注意力が必要である。 | |

2018 理科-②

| | 出題傾向の変化/出題の特徴 | 学習のポイント |
|---------------|---|---|
| 問4 地学小問 | (ア)では地震計の仕組みが問われた。 (イ)の岩石分類では幅広い知識を使う必要があった。 (ウ)は太陽の観察についての出題。(i)と(ii)の2問があり完答問題であった。 | |
| 問5 電流と発熱量 | 電流と発熱量に関する実験の問題。(ア)はオームの法則の基本であるが、それ以降はグラフを正しく読み取る力が求められた。与えられた設定を把握し、電流、電圧、抵抗、電力などの関係を使って結論を導くもので、レベルは高い。 | |
| 問6 化学電池の実験 | 金属の溶けやすさを決定するにはどんな実験をすればよいか、考える問題であった。(ア)(イ)は基本的な原理を知っていれば解けるものである。例年通り、会話を読み進めていくパターンで、情報を整理しながら解く必要があった。 | 差が出るのは問5～問8の中でそれぞれ2問ずつくらい。基本は全て正解し、いかに応用問題を解けるようにしていくかが今後のポイントとなる。 |
| 問7 蒸散の観察 | 全国入試でもあまり目にしない、葉の「ふの部分」での蒸散について出題された。問6と同様、どのような実験をすればよいか考えるもので、実験内容を記述式で答えるものであった。 | レベルの高すぎる問題は除き、全国入試で標準的な問題に多く触れ、ミスが減らす練習も必要になってくるであろう。 また、実験の考察は今後も出題される可能性が高いので、対策が必須。 |
| 問8 気象の観測 | 図の中のグラフと風量や風向などから、いつ前線が通り過ぎたのか読み取る必要があった。またグラフは2つあり、気温のグラフと湿度のグラフがそれぞれどちらなのか判断しなければならない。基本知識をうまく使い、分析する力が必要である。 | |